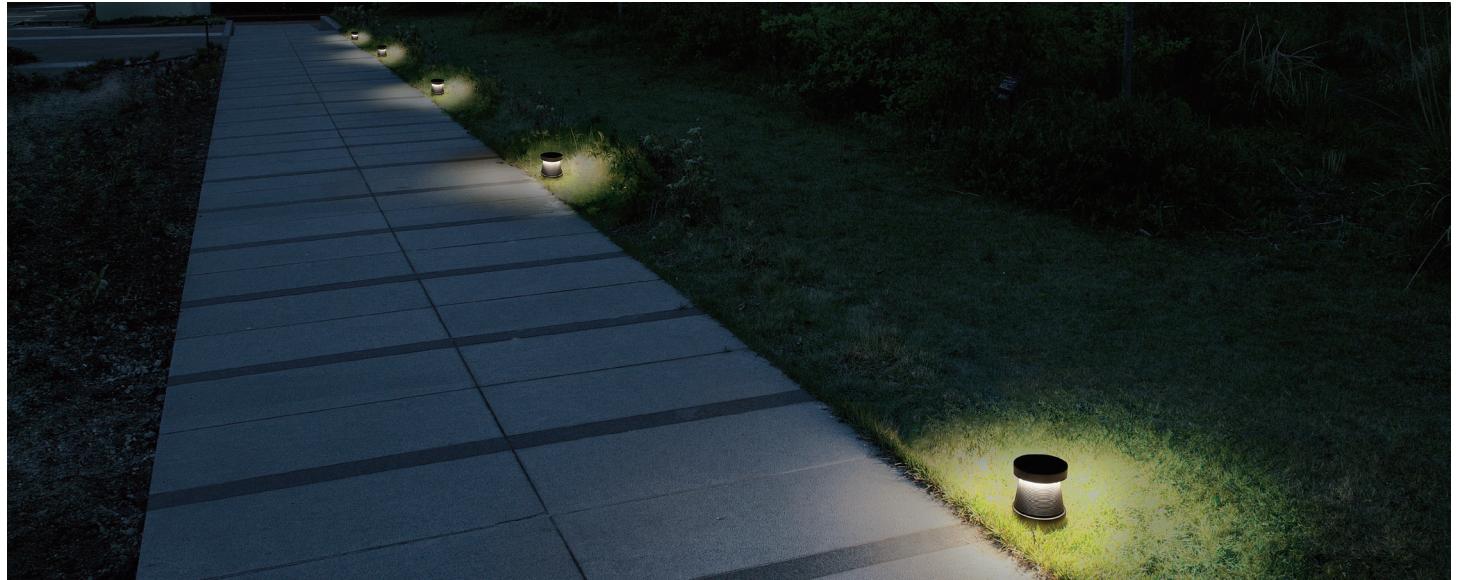


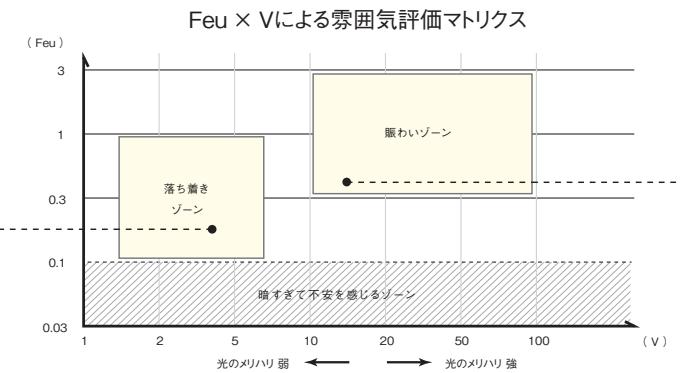
《第5回》「フットスタンドライト+ローポールライト シリンダー135タイプ」
—明るさを抑えて「落ち着き」や「賑わい」をつくる



「フットスタンドライト シリンダー135タイプ 間接配光タイプ」。柔らかな間接光により、落ち着いた雰囲気を演出する。器具ピッチは約5m。

画像提供：パナソニック

メリハリ度弱 [落ち着き] ← → メリハリ度強 [賑わい]

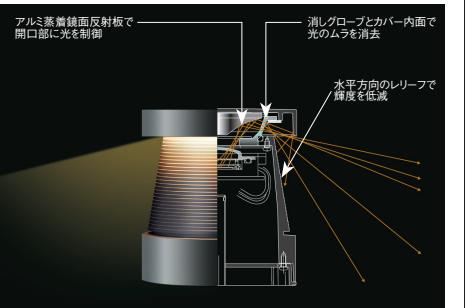


建築の内部だけではなく、外構やランズケープにおいても照明の役割は重要です。本連載ではパナソニックの建築照明器具、SmartArchi（スマートアーキ）を手がかりに、新しい照明とそれによって生み出される新しい空間を探ります。第5回は屋外空間での光のメリハリ度を数値化したパナソニック独自の指標であるV（ヴィー）と、Vを使った照明プランを実現する照明器具「フットスタンドライト+ローポールライト シリンダー135タイプ」を取り上げます。（編）

光のメリハリを示す新しい指標「V」

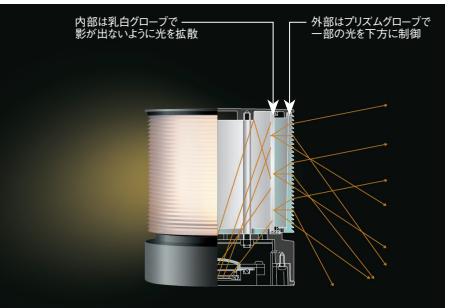
まず、Vが生まれた背景について、開発を担当したパナソニック エコソリューションズ社デザインセンターの最所祐二氏にお話を伺った。「東日本大震災後、街はこれまでのように明るくなくていいのではないかという雰囲気になり、照明を多く消した時期があったと思います。照明を専門とする人たちは以前から、たとえ暗くても、雰囲気のよい空間、安心感のある空間はつくれると言っていましたが、それを表す指標はありませんでした。今回Vをつくったのはまさにその空間を、Feu（空間の明るさ感を評価する指標）と組み合わせて定量的に評価するためでした」。Feuを下げることで省エネが可能だが、下げすぎると安心感がなくなる。人の心理評価実験によりFeu0.1～3の範囲だと屋外において、よい雰囲気で、なおかつ安心感を確保できることが分かってきた。しかし、その限られた範囲内のFeuの変化だけでは雰囲気を変えることはできない。

間接配光タイプ



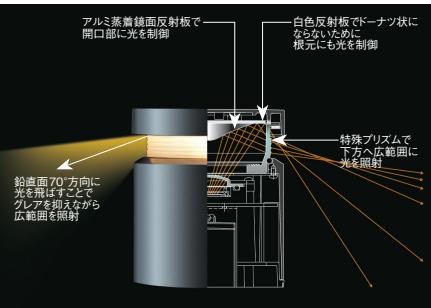
上部反射板と消しグローブによる制御で、広がりのある柔らかな間接光を実現した。

拡散配光タイプ

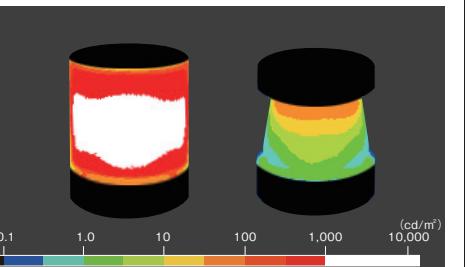


影をなくす内部乳白グローブと、光を下に向ける外部透明グローブの制御により、奥行き感のある発光面となっている。

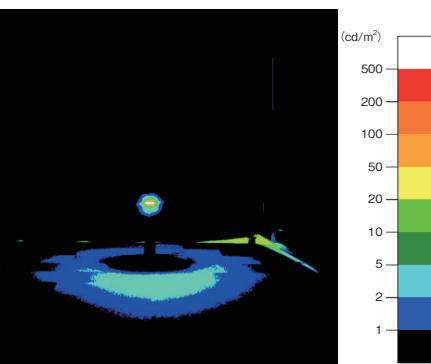
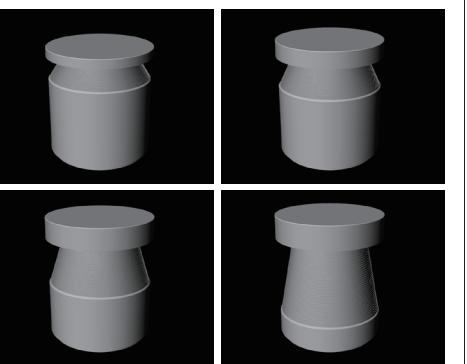
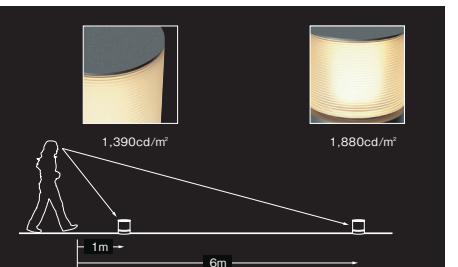
周配光タイプ・片側ワイド配光タイプ



上部反射板と特殊プリズムの制御で、グレアを抑えながら広範囲を照射する。



拡散配光タイプ（左）と間接配光タイプの輝度比較。間接配光タイプは輝度を100cd/m²以下に抑えた緻密なレリーフ面で、やさしい印象をつくる。



ズのイメージを踏襲しながらVを調整できる商品だ。開口は狭いが、プリズム設計により路面を均一に照らすことができる。本体の明かりではなく、路面に反射する明かりだけがVが上げられ、3タイプの中でも最も明るく(Feuが高く)、効率がよい。

「落ち着き感は庭園など、賑わい感は商業空間などで活用されるかと思います。これまで照明を評価するには、明るい、暗い、まぶしいくらいしか言葉がなかったので、それをもう少し広げられればと思いました。『落ち着き』や『賑わい』くらいは光のイメージとして言えるようにしたかったのです。今後は『華やかさ』なども考えられるかもしれません」（最所氏）。

「拡散配光タイプ」の外見はシンプルな形状だが、プリズムグローブの角度が細かく計算されている。近づいた時にまぶしくならないようにするために、光源からの上向きの光は、横と下方向に制御している。また、構造計算の結果、中に柱が3本必要と分かったが、グローブの中に柱を入れると影が出てしまう。そこで、光を拡散させる乳白グローブやシリットによって柱の表と裏から光が回るようにして影を消している。

「全周配光タイプ+片側ワイド配光タイプ」は、発光部を極力見せないこれまでのSmartArchiシリーズのWebサイトでは、各空間のFeuを使った設計モデルプランなど、照明設計に役立つさまざまなコンテンツを用意している。

<http://www2.panasonic.biz/es/lighting/smartarchi/>

スマートアーキ 検索